

年間第十三主日

マルコ 5・21-43

2018.6.30

高円寺教会 18:30 ミサ

クラレチアン宣教会 梅崎 うめざき たかいち 隆一神父

福音に登場するヤイロは、娘が死にかけているという危機に直面してイエスを探し求めます。今日は読みませんでしたけれども、この話の間には12年間出血を患っている女性も登場します。そして彼女も誰かの助けを必要とします。人は、自分の力ではどうしようもないことが降りかかるときに、助けを求めます。

わたしも司祭なので相談を受けることがあるけれども、大抵は何の力にもなれません。社会的に何の力もありません。法律の専門家であれば、それ相応の法的に認められた手段を使って講じることができます。あるいは、心理カウンセラーであれば、その人を治療するときに学問的に裏打ちされた方法を使われます。社会的にも非常に信頼があるので、困ったことがあったら教会ではなく多くの方はそちらの方に行かれます。お金の相談をされても、わたしは金がないので困ります。病気の方はわたしのところでなくてお医者さんのところに行きます。だから、司祭としてできることはほとんどありません。しかしそんなわたしのところにでも相談に来られる方はいらっしゃいます。でも、その人はわたしに病気を直してもらうことを目的とはしていませんし、お金の問題をこの貧乏が解決できるわけがないということも分かっている。また人とのトラブルを法律上での解決を望んでいるのなら、わたしは全く何の役にも立てません。

ただ少なくとも話を聴くことはできますから、話を聴きます。話に耳を傾けていると、相談に来られた方の気持ちが収まってきて、落ち着かれます。やがて、「自分は恥ずかしいと思っていたけども、この話を自分の親とか知人、いろんな人にも話を聞いてもらいます」と言って出掛けて行きます。そして、いろんな意見をいただいているうちに、自分の抱えている問題は自分を押しつぶすかと思っていたけれども、物の見方が変えられていく。問題そのものについて理解すると、ほっとする。やがてすっかりその人が変えられて、自分の力で解決に向かう姿を見たときに、「対話の力はすごいものだ」と感じます。

イエスは出血病の女に対して「あなたの信仰があなたを救った」と言われま

す。「問題は解決していないかもしれませんが、そこに立ち向かっていく力をあなたは持っているのですから、あなたの力で解決できますよ」と言われました。ですから相談をしても、解決する力はその人の中から湧き上がって来ます。

わたしたちキリストを信じる者は、神様以外に何も持たない無力な者ですが、人生の途上で悩みを抱えていても、イエスに出会うことで何かが変わるということを信じています。わたしたちが悩みを抱えることがあっても、主に出会うことで変えられていきます。そして、変えられたわたしたちも、主と同じように、何も持たず、人に出会うことで、人の内にある大きな可能性を見出すお手伝いができるようになります。